

第十二回

深掘り！

京博バックヤード

その六

(文化財

保存修理所

その四)



さて今回はまた
京博文化財保存修理所に
やってまいりました



この建物
大きな出入口があります
何のためにあるかというところ

大きな仏像などを搬入するため

これは搬入の
時の画像です



損傷を防ぐ
ために丁寧に
梱包

担架や作業台などは
仏像に合わせて手作り

ひゃー
大ごとですね
今回の

案内人は公益財団法人
美術院工房長の片山敬さん



仏像をはじめ木造彫刻の修理を
する美術院は明治31年岡倉
天心によって創立されたそうだ

そんな古くから

岡倉天心の
レリーフ



明治・大正の
美術運動の
指導者



こちらは明治40年の
修理技術者の心得です



そんな歴史ある美術院の
工房はー

こちら
です



美術院の作業服

うわあ！



高い天井にはクレーン

あのバルコニーみたいないなところからスライドして動きます

修理中の台座

でかい

仏像
だけでなく
仏像を安置
する台座も
修理します

バラバラになった

あー足



マット

手

スポンジ
クッション

棚

修理中の仏像

しかもこれらみんな国宝とか
重要文化財

ふあふあ

オーラがすごい

地震対策の
ため固定

うわ
非日常
世界に
入国した

なんかもうめっちゃ緊張する

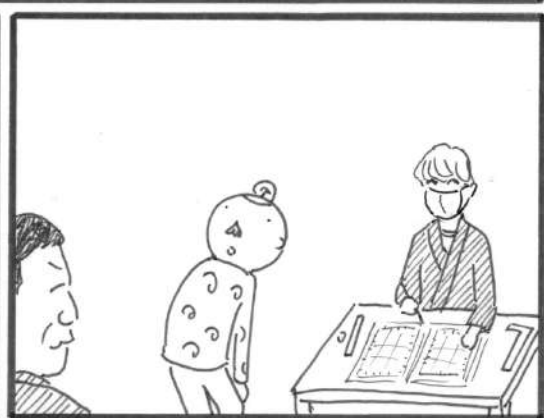




修理する作品の構造や
その意味としてその作者が
作品に込めた想い



それを
読み取ることは当時と同じ
手作業の経験を重ねる
ことでしか出来ないのです



話の深さに
ふと気が遠くなる

そうなのだ 絵画修理の時もそう
思ったけど数百年も前の作品が
今日まで残るのは



それだけの時代の
人々がこころして作品と対話して
修理を重ねてきたからなのだ

今に伝えられる古い仏像には



仏像をつくらした人そしてそれを代々守ってきた人々の気持ちがいこめられてるのだ

ハア？なんかい深いです！

そう考えると技術者の養成は大事ですわね

その通りです

新人職員さんはこれからが経験やね

はいっかんばります！



私美術院で文化財修理をするのが夢だったんです！



文化を次世代に伝える若い人のなんとまぶしいことだろう

文化財保存修理所そこは文化が過去からやって来て未来へと旅立つ場所

ここがその出入口

見学を重ねるためにありかたみが増す建物であった

